

センターの窓からは、今日も晴れわたった北アルプスの山々が純白な清楚な姿を見せていてくれます。

この山々を慕って年間大変な数の人達が、憧れの信州の山へとやって来ます。最近これら登山者が、社会情勢を反映して、高齢化しつつあり、中高年の方々が多く見うけられている。また、余暇の増大により、家族連れ等も大変多くなっています。多様な登山者にともない遭難事故も起きております。このような登山者層の変化と併せて山岳におけるいろいろな問題が生じている。貴重な自然の破壊、環境汚染、ゴミ処理等の問題が生じています。

このような状況の中で、当センターとしては、山岳における登山者のモラルの低下による問題、例えば、基礎的知識がない為におきる遭難事故や、ルールを守らない、或いは山岳関係者の注意を無視した為に起きる事故等、また、自然保護思想の欠如による高山植物等の不法採取、ゴミの投棄等々いろいろあります。これらの対策は、仲々難しいが、やはり教育的な見地から対処してゆかねばと考え、センターとしてもその立場に立たされている感じがあります。

センターも創立20周年を迎えようとしております。現在まで、多くの山岳関係者、自然保護関係者に支えられていろいろな取り組みをして参りましたが、基礎的な講座の外に、社会情勢の変化というか、登山者層の多様化にあわせて、特に、中高年層の対策として、昨年度と本年度50歳以上の人々を対象にして、シルバー登山講習会を3回開設しました。大変な反響で希望者が殺到し、大勢の方々をお断わりする結果であったが、山へ登るには、それなりの基礎知識、並びに体力、精神力、年齢に合ったコース選び等々の必要性を認識して頂いただけでも大変な成果があったと思いますし、遭難防止の一助にもなったかと思えます。今後も引き続いて充実したものに参りたいと思えます。

また、自然破壊が進む中で当センターでは、毎年各自然保護関係の講習会による啓発を図っていく外、本年度は山岳地帯の沢水、特に登山者が飲用する沢水の汚染状況を調べてみました。三年間にわたって調査する予定であるが本年度の調査結果でも汚染の実態があり何とも嫌な感じである。登山者或いは、山岳関係者への警告として、センターの学習の中に取り上げて参ります。

ところで、本年度も登山関係11講座、自然保護関係2講座を主催事業として開催したが、センターとして、最も力を入れている、指導者層の講座である学校集団登山研修会の参加希望者が少ない事実、これは一体どういう事か、いろいろ調べてみるに、各種の行事と重なる時期的問題や実際に行く山での研修でない事業などの問題点等がわかってきた。県下の学校集団登山の実態は本年度実施調査でもわかるように多数の学校で実施している。登山の経験の浅い先生方には、安全のためにも是非受講して欲しいと思う。新年度からは実施場所等、工夫をこらして新たな出発として取組みたいので多くの先生方の参加を希望するものです。

ここで、誠に悲しい事実をご報告しなければなりません。

センターの主催する最終の講座として高校山岳部員及び、顧問の先生を対象とする「冬の野外生活研修会」で大変な事故を起こしてしまいました。気象条件が不安定の中での研修会であり、慎重深く検討し実施したにもかかわらず現地での雪上歩行訓練中、全く予知出来なかった局所的な雪崩の発生により、山岳部顧問班6名と講師1名に白魔が襲い5名がのまれ、参加者の機敏な行動により5分後から30分後70cmから1m50cmの雪の下から4名が救出されましたが、残る1名は4名とは若干離れた所で発見され、懸命な救助活動にもかかわらず一命をとりとめることができませんでした。予知出来なかった事故内容とはいえ、登山の安全を学ぶための最も安全であるべき研修会に起きた事故で、主催者として大変申し訳ない次第でございます。謹んでお詫びすると共に、亡くなられた故酒井 耕 先生の御冥福をお祈りし、御遺族に対し深く追悼の意を捧げます。

深い悲しみの中にあつて、私達がなさなければならぬことは、この貴い経験と教訓をしっかりと踏まえて原因の究明と反省の上に立ち、もう一度原点に立ち返り登山を目指す顧問、生徒達のために、続けて努力して参らなければならない大変厳しい現実があります。

多くの山岳関係者の皆様のご協力のもとに安全登山への道を勧め参りたいと存じます。

今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

『冬の野外生活研修会…雪崩遭難事故についての報告』

山の事故防止・安全登山を目標に掲げ、講習会・研修会を開催してきましたが、今回の研修会において、雪崩により一名が死亡する事故が発生しました。故酒井 耕 先生の御冥福を祈り、御遺族に対し深く哀悼すると共に、この悲しい事故を反省し、今後のセンターの講習会・研修会に生かしていきたい。

1. 雪崩事故の経過

- (1) 日 時 3月18日(土) 15時45分頃雪崩発生。
- (2) 場 所 白馬村神城地籍 遠見尾根(地蔵の頭から南西約300m付近)
- (3) 地 形 地蔵の頭(1673m)より南西約200m、1640m地点にテントを張り、そのテント場より南西に100m位下がった場所で、この周辺は遠見尾根が、緩やかな斜面で広がっている。
- (4) 気 象 天気…快晴、気温は低く、風は強い(特に稜線では)
- (5) 雪 質 積雪は1~1.5m位で、17日(金)に雪が降り、新雪は30cm位で、吹きだまりでは50cm位あった。しかし、18日(土)の好天により雪は締まっていた。(訓練をした場所ではワカンを履いて、膝下までもぐる程度であり、稜線や風の強くあたる場所では雪がクラストしていた。)

(6) 事故発生時の状況

1班(宮本講師…7人顧問の先生)、2班(松田講師…6人男子生徒)、3班(重田講師…5人男子生徒)、4班(藤松講師…5人男子生徒)、5班(古幡講師…8人女子生徒)が、テント場周辺で15:30頃からワカンによる歩行訓練を開始する。5班はテント場の北側斜面、他の4つの班は南西側の斜面で訓練に入った。遠見尾根を見て斜面の左から、1班・4班・2班、右に3班と位置した。1班は宮本講師が上におり、その下5m位に横一列となり、上に向い登高を開始していた私(藤松)が「ピシ」という小さい音が聞こえ、左上を見ると、1班の上部斜面から雪崩が発生、その瞬間「雪崩だ!」と叫んだ。次の瞬間1班の5人がまきこまれ、直ぐ下で止まり、デブリとなった所の上部に福島教諭が胸から上がっており、急いで駆け付けた。

(7) 救助の経過

私が駆け付け「雪崩だ、みんな来い!」と大声で指示し、4班・2班・5班、そして、3班と数分にして全員が駆け付け、スコップ・ピッケル・手により掘りだした。私は全体の指示と二重遭難に備えて位置し、16:20~40にセンターの古幡が町署に遭対無線で雪崩発生第一報をいれた。

15:50頃…関・福島教諭を救出する。(関先生フノーゼがでていた)

16:10頃…赤羽教諭を救出する。(深さ1m50cm位、フノーゼがでており、口の右下から血がでていた)

16:15頃…宮本講師を救出する。(深さ1m30cm位、フノーゼがひどく、意識がはっきりしていない)

16:50頃…酒井教諭を救出するが、30分の人口呼吸・心臓マッサージの甲斐もなく、呼吸・脈拍が停止、瞳孔は散大しており蘇生しなかった。(他の先生より下で発見、深さ1m20cm)

(8) 救出後の経過

酒井先生を救出した後、二年生2名を残し、下山準備の指示をだす。18:00少し前に全員を集め、故酒井先生に黙祷し、荷物はスキー場の圧雪車で運んでもらい、遭対協の方を先頭にアルプス平駅まで行き。リュックを動かしてもらい、19:00頃下の駅に着き、タクシーに分乗し、19:40頃センターに到着、夕食をとる。翌朝6:45に起床し、帰宅の準備をし、7:30から解散式を行ない解散した。

2. 雪崩の状況とまきこまれた様子

(1) 雪崩の状況

面の表層雪崩で長さ約50m、幅約10m(6人が横一列であったが斜面に対して右側の今井・田中教諭においては足元をかるく雪が落ちた程度との事)の規模であった。斜面全体が左に傾いていたこともあり、酒井教諭が一番力を受けたらしく、流された距離も長い。

デブリの長さは約20mであり、5人まきこまれた内4人までは、比較的かたまっていた。

(2) 雪崩現場位置と雪崩発生状況絵図

